

# 大麦栽培ごよみ

# 全量1等で売れる大麦の生産を!!



令和3年8月  
高岡市農業技術者協議会  
高岡市農業協同組合  
高岡農林振興センター

基本技術の徹底と生育に合わせた管理で収量・品質の向上を目指しましょう!

## 【目標】 単収 350kg/10a

1等比率	90%以上
整粒比率	80%以上
品質ランクA格付	100%

## 【栽培のポイント】

- ① 排水対策の徹底
- ② 土づくりの実践と的確な基肥施用
- ③ 計画的な播種(時期に応じた播種量の遵守)
- ④ 除草剤を使用した雑草防除
- ⑤ 赤かび病等の適期防除

## ★大麦は排水対策が重要

- 稲刈り後、すみやかに深さ20cm以上の額縁排水溝を設置する
- サブソイラによる心土破碎で、ほ場の乾きを促進する

## ★土づくり

pH6~6.5の確保と有機物の施用

資材名	耕起前
苦土石灰	100kg/10a以上
発酵ケイフン	150kg/10a

## ★目標苗立数と播種量の目安(ドリル播)

播種時期	目標苗立数(本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安(kg/10a)
9月下旬	140	6.0
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

## ★基肥(基準施肥量) 地力に応じて加減する

Jコート大麦48号 45kg/10aを目安に

(追肥) 原則として追肥は行ないませんが、生育状況に応じて消雪後に追肥を行う場合があります。

※詳細は管理情報等でお知らせします。

## ★雑草防除 ~カスノエンドウ、カノコグサ等の防除に!~

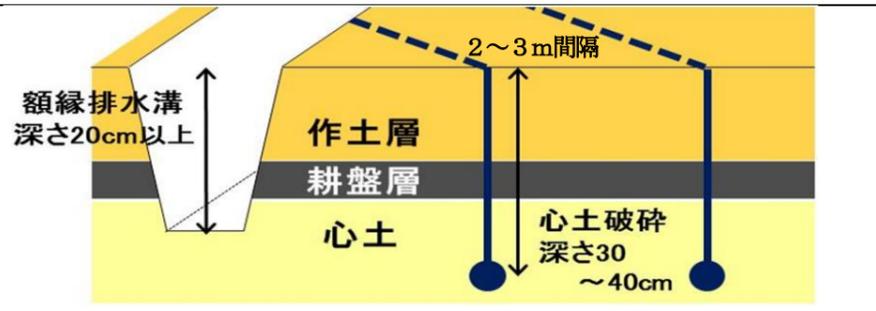
薬剤名	散布量(/10a)	使用時期
リベレーターフロアブル	60~80ml 希釈水量100ℓ	播種後~麦3葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)
リベレーターG	4~5kg	播種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)

\*処理後に大量の降雨が予想される場合は使用を避ける

## ★赤かび病防除

	液剤体系	粉剤体系	ラジヘリ体系
1回目薬剤 穂前期(開花初め)	トップジンM水和剤 1,000倍(150L/10a)	トップジンM粉剤DL (4kg/10a)	トップジンMゾル 8倍(0.8L/10a)
2回目薬剤 1回目の1週間後	シルバキュアフロアブル 2,000倍(150L/10a)	ワークアップ粉剤DL (3kg/10a)	シルバキュアフロアブル 16倍(0.8L/10a)

## 【設置例】



## 【生育ステージ】

12/1 頃(10月)の目標茎数 600~800本/m<sup>2</sup>

苗立数 140~220本/m<sup>2</sup>

本葉6~7枚

幼穂形成期 (2月上旬)

m<sup>2</sup>穂数 450本

穂揃期 (4月下旬)

成熟期 (6月上旬)

《収量構成要素》  
・m<sup>2</sup>穂数 450本  
・1穂収量 1.04g

《刈取り適期の目安》  
出穂後43日(平年)  
積算温度(平年)743℃  
子実水分30%

上部2/3がツメで押えてもつぶれない。  
下部1/3はポツンとつぶれる。

9月中・下旬	10月上旬	11~12月	1~2月	3月	4月	5月	6月
★稲刈り後速やかに額縁排水溝を設置する	★適正播種量で苗立数を確保する						★基本防除と適期刈取りで、高品質麦に仕上げる
<p><b>排水の徹底</b></p> <p>● サブソイラによる心土破碎と弾丸暗渠の施工 * スクリューオーガ等による額縁排水溝の設置 ● 水稲収穫後、速やかに排水対策を実施する</p>	<p><b>種子消毒</b></p> <p>● 種子消毒を徹底し、病害虫の発生を防止する</p> <p>● 10aあたり100kg以上施用する</p> <p>● 土壌pH6以上を目標として、耕起前に苦土石灰を</p> <p><b>土壌pHの矯正</b></p> <p>● 薬剤消毒法 ベンレートT水和剤20を種子重量の0.5%を粉衣する。(種子10kgに水200mlを加えて種子を湿らせてから薬剤50g混和する。)</p>	<p><b>施肥・耕起・砕土・作溝・播種</b></p> <p>● 排水溝は、随時手直しをする</p> <p>● 播種量は、播種方法・播種時期に合わせて適正量を守る</p> <p>● 基肥量は、地力に応じて加減する</p> <p>● 土が乾いた状態で耕起作業を行い、土を細かくする</p> <p>● 一連の作業は1日で終了する</p>	<p><b>除草剤の使用 (雑草が多い場合・ドリル播きに限る)</b></p> <p>● 排水溝の手直し (随時)</p> <p><b>肥効調節型肥料 (一発肥料) の追肥は原則不要</b></p>	<p><b>赤かび病の防除</b></p> <p>● カスノエンドウの種子混入を防ぐため、発生したら速やかに抜き取る</p> <p>● 開花期に多雨、曇天が続くと赤かび病が発生しやすくなるので注意する</p> <p>● 1回目...穂揃期(開花初め)</p> <p>● 2回目...1回目の1週間後</p>	<p><b>収穫後の管理</b></p> <p>● 清掃を徹底する</p> <p>● 異種穀粒の混入を防止する為、コンバイン・乾燥施設の跡が残らない頃を目安にする</p> <p>● 刈取り適期は、子実粒がロウ状の硬さになり爪を立てて</p> <p><b>収穫・乾燥・調製</b></p>	<p>● 刈後後に大豆等の作付けを行わない場合は、7月上旬までに耕起するなど病害虫の発生源とならないようにする</p>	

## 栽培管理のポイント